

健康福祉みらい部長の仕事宣言！ 進行管理表

健康福祉みらい部長 篠原 久子

[リープロの名称] 未来を創る人を育てるプロジェクト
 [目標値] ①鳥栖市地域子育て支援センター利用者数 15,000 人、 ②保育所待機児童数 0 人（現状維持）、
 ③休日や夜間に受診できる医療機関を知っている親の割合[1歳6か月健診時]100%
 (概要) 子育てについて、大きな不安や負担を感じることなく、安心して生み、楽しく学校に通い、意欲的に学ぶ取組を進めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	子育て支援センターでの親子の交流の場の提供や育児相談、育児講座を実施、また、まちづくり推進センターで親子遊びの会や「ママ・コミュ広場」を実施した。「鳥栖市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、保育サービスの拡充、待機児童解消のため、保育所等の新設計画を採択した。 鳥栖市休日救急医療センターを運営するとともに、夜間に久留米広域小児救急医療センターで受診できる体制を確保した。
	自己評価	子育て支援センターやまちづくり推進センターでの事業実施は、保護者の不安解消につながっている。待機児童解消に向けた取り組みを進めることができた。 鳥栖市休日救急医療センターは小児科受診が多く、小児科専門医の診察日を充実させることで保護者の安心につながっている。
	下半期への対応	「鳥栖市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、保育サービスの充実に努める。
下半期	取組実績	
	自己評価	
	目標値の達成状況	
	次年度への対応	

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計

* 5段階評価での評価（5：最高評価、3：標準、1：最低評価）

副市長の指示

上半期
 幼保と小学校等の密な情報共有を図り、また小中一貫教育を推進することで、保育・教育環境の充実を図ること。
 子ども・子育て支援事業計画に沿って、着実な事業の推進を図ること。

下半期

健康福祉みらい部長の仕事宣言！ 進行管理表

健康福祉みらい部長 篠原 久子

[リープロの名称] 多様な文化が息づくまちプロジェクト
 [目標値] ①市民文化祭参加者数：7,500人、②多目的ホールトレーニングルーム利用者数：10,000人、
 ③「フィッ鳥栖」会員数：500人
 (概要) スポーツと文化を通したまちづくりを進めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	アウトリーチ事業、フッペル鳥栖ピアノコンクール事業、市民文化祭事業、生涯スポーツ普及事業、スポーツ団体指導者育成事業などに取り組んだ。 (仮称)健康スポーツセンター整備事業の基本設計に着手した。
	自己評価	アウトリーチ事業、市民文化祭事業、(仮称)健康スポーツセンター整備事業等は概ね計画通りの進捗を図ることができた。
	下半期への対応	アウトリーチ事業や市民文化祭、様々なスポーツイベント等を市民に親しめる事業として取り組んでいく。(仮称)健康スポーツセンター整備事業は丁寧な基本設計を行っていく。
下半期	取組実績	
	自己評価	
	目標値の達成状況	
	次年度への対応	

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計

* 5段階評価での評価（5：最高評価、3：標準、1：最低評価）

副市長の指示

上半期
 アウトリーチ事業等については、より多くの市民の方々が様々な分野の芸術に触れることができるよう工夫すること。
 (仮称)健康スポーツセンター整備事業については、適切な事業推進を図ること。

下半期

健康福祉みらい部長の仕事宣言！ 進行管理表

健康福祉みらい部長 篠原 久子

[リープロの名称] 市民の健康な暮らしを支えるプロジェクト
 [目標値] ①健康マイレージの参加者 7,000 人、②健康診査の結果がハイリスクの方への保健指導実施率 80.0%
 (概要) 市民が、自分の健康を自分で管理できるようにし、健康づくりへの意識を高め、主体的に健康づくりに取り組めるよう推進する。また、高齢者や障害のある人が住み慣れた地域で社会参加しながら、自立した生活を送れるような取組を図ります。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	自らの健康意識を高めることを目的とした「うらら健康マイレージクラブ制度」を 通年実施するように制度変更した。健康診査や健康教室、介護予防教室などを行っ た。特定健診の結果、ハイリスクの方へ家庭訪問による保健指導を行った。 がん検診の受診率向上のため、周知及び複数のがん検診を同時に受診できる機会 の拡大に努めた。 障害者・高齢者への支援や市民を対象とする障害理解促進事業の準備を行った。
	自己評価	うらら健康マイレージクラブの参加者が増加した。健康に関する各種事業を行うこ とで生活習慣病や介護の予防に繋がった。
	下半期へ の対応	小学生全員を対象に子ども版健康うららマイレージクラブに取り組む。障害者・高 齢者への支援を継続する。市民を対象とする障害理解促進事業を行う。
下半期	取組実績	
	自己評価	
	目標値の 達成状況	
	次年度へ の対応	

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計

* 5段階評価での評価（5：最高評価、3：標準、1：最低評価）

副市長の指示

上半期
 健康についての関心をより一層もってもらうためにも、各種事業の PR 方法、例えば市報やH
 P以外の、より対象者に届きやすい情報発信手段について十分検討すること。

下半期